

北朝鮮軍参加の意味

ロシアに派遣された北朝鮮兵は、まさにこの条約が実効的な集団自衛条約である事を示した。ロシアにとつてみればロシアが国際的に孤立しているわけではないことを示す外交的キャンペーンの一環としての意味は大きい。ロシアと北朝鮮は6月に「包括的戦略パートナーシップ条約」を結んだが、その4条で「武力攻撃を受けて戦争状態に陥った場合は、遅滞なく（中略）利用可能な軍事および他の支援を提供する」と定められており、集団的自衛権の行使として弾薬の供給だけではなく兵員を送ったのだらう。今やロシアがウクライナ戦争で使う砲弾の約半分は北朝鮮からの提供と言われるが、北朝鮮軍の戦争への参加は大きな政治的意味を持つたろう。

ウェーブ 時評 wave



田中 均

たなか・ひろし 69年京大法学部卒業。外務省経済局長、アジア大洋州局長、外務審議官を経て（株）日本総研国際戦略研究所理事長を経て特別顧問、（公財）日本国際交流センターシニア・フェロー。

守ることで、北朝鮮なりの大義を、北朝鮮にとつての戦略的意味は、もともと大きい。無論、ミサイルや原子力潜水艦技術などロシアから対価を得ることも重要だろうが、最大の意味は朝鮮半島有事の際はロシアの協力を得る可能性を拡げること、北朝鮮の対韓国、米国、日本に対する抑止力強化につながるという事だろう。北朝鮮のウクライナ戦争への参戦は朝鮮有事へのロシアの支援可能性を開くのだらう。1950年に始まった朝鮮戦争において北朝鮮を支援したのと同じ歴史が示す通り、朝鮮半島におけるロシアの影響力拡大には神経質にならざるを得まい。

そして米国トランプ前大統領の再登板である。1期目に比べ朝鮮半島の戦略的関係は大きく変わった。日米韓の戦略的関係が強化されたという反面、ロシアはNATOの敵として存在し露朝関係が強化されている状況にどう対処していくのか。中国はかなり深刻な経済的困難の中にあり、経済的展望を損なうような現状変更にはくみせない。米国が60%という対中関税を掲げるのを何とか抑えたいと思っているだろうが、抑えられない場合には「目には目を」の戦略に走っていくのだらう。他方、朝鮮半島の状況は中国と日米韓の協力の余地が大きい。北朝鮮の核の深化には中国は反対しており、また露朝関係の深化にも複雑な利害がある。米国や日本はこのような事情を念頭に中国との協議を加速すべきなのだろう。